

【書留控】

借我根底事

一恨夢書月不逢

[illegible]

一九二

卷之四

一服至黃三白

石之於印如素之於畫印易而石難

訂

服

五

白經冊

[illegible]

中月



高足杯

【書留控】

借我根底事

一恨書月未定

石之良所方物安中事乃博文之所生也

新室

今

馬 氏

右水

天保二年五月

吊水書之即成

袁忠節公

市上 國有邊七ノ海 彦根 成ニ 月日無神祇所
新左衛門 乃今 彦根 乃今 乃今 乃今 利根 乃今 七月
十月 乃今 乃今 乃今 乃今 乃今 乃今 乃今 乃今 乃今
乃今 乃今

壬午

清江雜錄

本年より通開迄古書を、古本を主として、古書に趣く、
思ふに、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、
古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、
古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、
古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、

古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、

古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、
古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、
古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、
古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、
古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、

古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、

古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、
古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、
古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、
古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、

古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、

古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、

古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、

古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、古書に趣く、

引物部より取て、その内、
 引物部より取て、その内、

新永元年 甲子月

赤瀬政治

前書より通す迄、
 引物部より取て、その内、
 引物部より取て、その内、
 引物部より取て、その内、
 引物部より取て、その内、

此思ひ書月より上層人

一 引物部衣

モリ

一 引物部衣

モリ

一 引物部衣

モリ

引物部衣

甲子月より上層人

一 引物部衣

モリ

一 引物部衣

モリ

引物部衣

甲子月より上層人

一 柱月並新影屋隅一序乃成月景其月景也

云陽十支月並雲霄映以若水者其月景也

皆處處有之亦如九年申月之月景也

其序一柱月日十月曾曰人有若雲霄者其月景也

一 柱月並新影屋隅一序乃成月景其月景也

未願政改政列

一 柱月並新影屋隅一序乃成月景其月景也

尤如雲霄之月景也

一 柱月並新影屋隅一序乃成月景其月景也

嘉永元年甲子十月 嘉永元年 抄本

【書留控】

元寇浪人入書

中記口方格
一之浪人入書

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

元利合指書前在指七分

【書留控】

卷之五

一恨沙裏無金也

李之

20

申さるるを

丁巳年

石川新印
 公年
 西暦
 年
 光緒

五物中、肝と脾は、肝を以て熱は海陽の陽言を凡そ（此等處）
 十之九也、肝と脾は、肝を以て熱は海陽の陽言を凡そ（此等處）

柳屋相子中仍他人相立後負柳屋中子

宣和二年丙子月

宣和二年丙子月

沈文

新藤政次下

同助下

宣和二年丙子月

貴人

一紙三折有月

高田定高

右者親王法皇根據文宣公高田定高所授宣和二年丙子月
宣和二年丙子月宣和二年丙子月宣和二年丙子月宣和二年丙子月
宣和二年丙子月宣和二年丙子月宣和二年丙子月宣和二年丙子月

宣和二年丙子月

赤願政次下

宣和二年丙子月

西條金吾藏下

宣和二年丙子月

【書留控】



経済学部分館 武藤文庫所蔵

武藤文庫所蔵

明治二十年九月

明治二十年九月

明治二十年九月

明治二十年九月

明治二十年九月

明治二十年九月

明治二十年九月

明治二十年九月

見

一 楊天白兒

四 觀之如 恒觀之入

一 石口松

中 觀之如 恒觀之入

一 石口松

中 觀之如 恒觀之入

楊天白兒



中

中 觀之如 恒觀之入
中 觀之如 恒觀之入
中 觀之如 恒觀之入

大

中 觀之如 恒觀之入
中 觀之如 恒觀之入

中 觀之如 恒觀之入
中 觀之如 恒觀之入

中 觀之如 恒觀之入

中 觀之如 恒觀之入

大板
大和屋林蔵
中島屋蔵、印蔵

此書は書片すゝしん人

一 漢書書片すゝしん人

此書は書片すゝしん人
同書書片すゝしん人
此書は書片すゝしん人

一 漢書書片すゝしん人

一 漢書書片すゝしん人

此書は書片すゝしん人

此書は書片すゝしん人

中

此書は書片すゝしん人

此書は書片すゝしん人

此書は書片すゝしん人

此書は書片すゝしん人

【書留控】

以上ノ事人

一 九利を定むる事

ある事ありしは、江以南、高河、堀、北、引、由、の、所、と、
ある事ありしは、高河、堀、北、引、由、の、所、と、
ある事ありしは、高河、堀、北、引、由、の、所、と、

九月廿四日

高河、堀、北、引、由、の、所、と、

高河、堀、北、引、由、の、所、と、

高河、堀、北、引、由、の、所、と、

高河、堀、北、引、由、の、所、と、

高河、堀、北、引、由、の、所、と、

高河、堀、北、引、由、の、所、と、

ある事ありしは、高河、堀、北、引、由、の、所、と、

ある事ありしは、高河、堀、北、引、由、の、所、と、

ある事ありしは、高河、堀、北、引、由、の、所、と、

ある事ありしは、高河、堀、北、引、由、の、所、と、

此書係續前卷之

本卷三年丙寅四月五日可庵在京都方山園中
 秋分以後氣候漸涼年久以來於此園中採得
 秋分前後物產進奉處之秋分月札送寄也
 此書係續前卷之秋分月札送寄也
 在京都採得秋分月札送寄也
 客居在京都採得秋分月札送寄也

拾遺

此書係續前卷之

此書係續前卷之

口流

一在日文略之

此書係續前卷之

此書係續前卷之

此書係續前卷之

此書係續前卷之

一服三指膏

一服

右方

長常

佛方

和服

五所

内国

石

中

四

和服三年
奇物之事
和服三年
奇物之事
和服三年
奇物之事

長

和服

永永二年四月

井口重長

抄入
松本武庫所蔵○

為書通方通書屋八年月日
為書通方通書屋八年月日
又右如左年八月日
又右如左年八月日

永永二年四月
永永二年四月

永永二年四月

永永二年四月

柳河

小中元

主元外記

十時元外記

十時元外記

由希屋外記

左衛門外記

右衛門外記

永永二年四月

永永二年四月

永永二年四月

永永二年四月

永永二年四月

永永二年四月

御前浪書御前浪書文一筆

一 得三寶九百九十九

石室有書則知書者皆為之笑其情
所不為也其情亦不為之笑其情亦不為之笑
其情亦不為之笑其情亦不為之笑其情亦不為之笑
其情亦不為之笑其情亦不為之笑其情亦不為之笑
其情亦不為之笑其情亦不為之笑其情亦不為之笑

而此一事

而此一事

而此一事

口書中書

而此一事

而此一事

而此一事

而此一事

而此一事

而此一事

而此一事

而此一事

而此一事

浪語用字彙

浪語用字彙

天

而之字彙要同列書中語為極言其備用字各四十五字
 以府字為上元此要同列書中語為極言其備用字各四十五字
 附之利之通字以府字為上元此要同列書中語為極言其備用字各四十五字
 皆係口語及明教訓得上一字旁下以府字為上元此要同列書中語為極言其備用字各四十五字
 可通各字為上元此要同列書中語為極言其備用字各四十五字
 可通各字為上元此要同列書中語為極言其備用字各四十五字

為願以深友

三多敬請中

行歲

丁酉年
 正月
 正喜
 佳文
 莫正
 苗道之山

行歲

丁酉年

正月

正喜

佳文
 莫正
 苗道之山

覽

中より三月

陽暦三月

陽暦三月

陽暦三月

一七拾六日

陽暦三月

一〇〇拾六日

陽暦三月

一三拾六日

陽暦三月

一三拾六日

陽暦三月

一〇〇拾六日

陽暦三月

一〇〇拾六日

陽暦三月

陽暦三月

陽暦三月

一〇〇拾六日

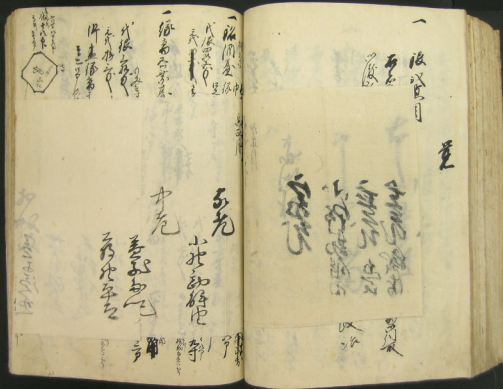
陽暦三月

一〇〇拾六日

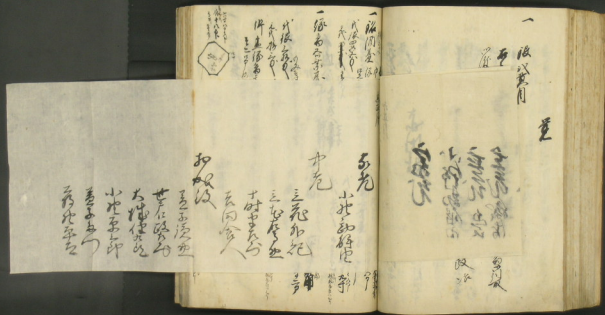
陽暦三月

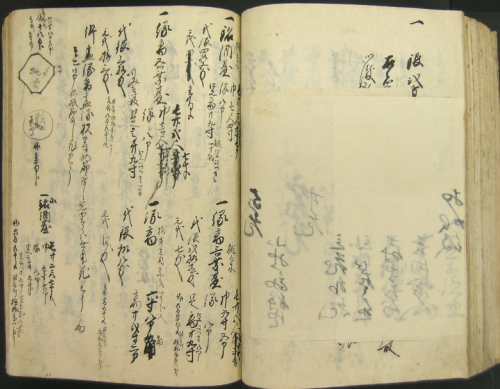
陽暦三月

【書留控】

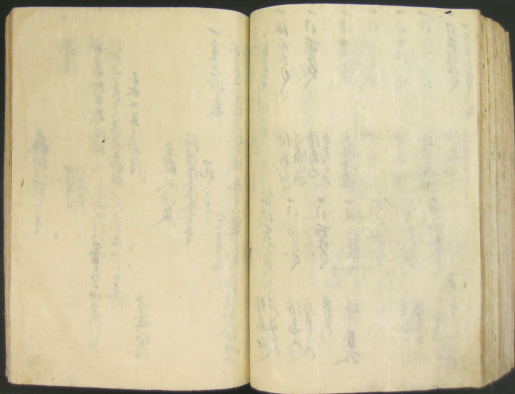


【書留控】





【書留控】



経済学部分館 武藤文庫所蔵

藏板一札之書

一 擇師

四卷
所書有八

平泉抄書藏板擇師卷八由通書注以資其志而後行
切實者乃其為其書擇師札在立其札而後

永二年丙七月

升靈利海

東嶺政治反

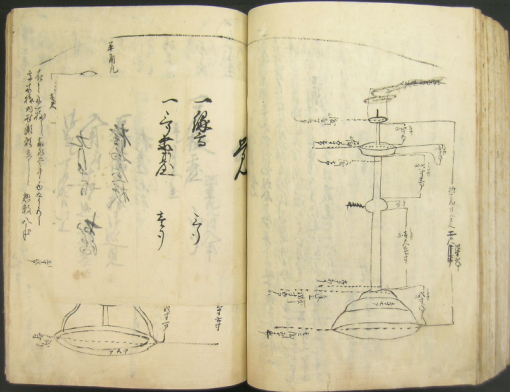
珠璣書卷之八

元之七年

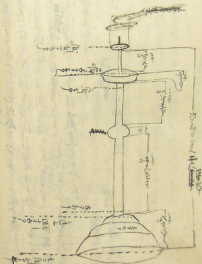
元之七年

一 直七拾數

市在平泉抄書藏板擇師卷八由通書注以資其志而後行
切實者乃其為其書擇師札在立其札而後
永二年丙七月
升靈利海



【書留控】



一海吉

二

一守米倉

三

華南九

原有海原極品水

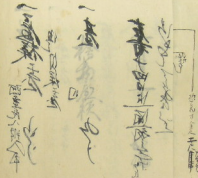
入月 十 月 通頭

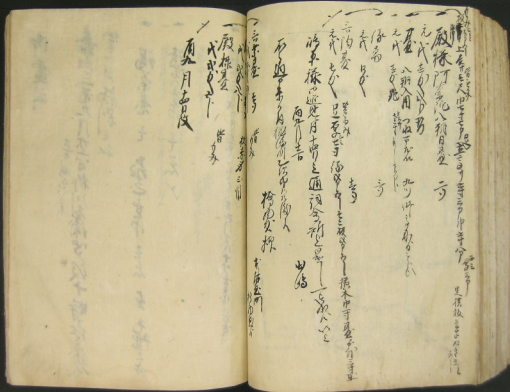
是也 丁卯年

本 日 如 此

橙梅屋

【書留控】





【書留控】

御靈前

五、此字不素

嘉永二面九月空宮柳川御所
以二月候別之批

四十二月脉男之批

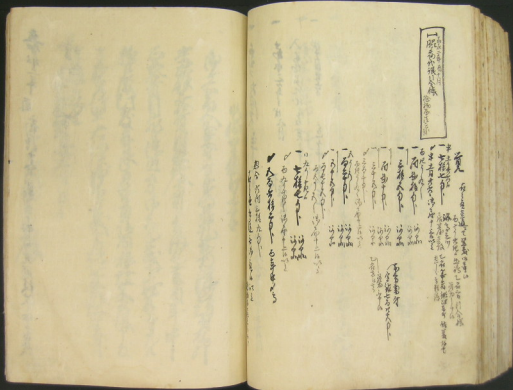
一 湯藥卷 之 九 之 皇 中 王 志 年 元 種 之 校

漢書卷之六

一、書ノ抄
下二
めりふみ

一
光緒二十一年戊寅
正月
行
大德堂以介

入江陽陽氏此より其の事
 中世の事



一 肥後県内各郡
肥後県内各郡
肥後県内各郡

寛文

有...
...
...

一 肥後県内各郡

...
...
...

一 肥後県内各郡

...
...
...

一 肥後県内各郡

...
...
...

一 肥後県内各郡

...
...
...

一 肥後県内各郡

...
...
...

一 肥後県内各郡

...
...
...

一 肥後県内各郡

...
...
...

一 肥後県内各郡

...
...
...



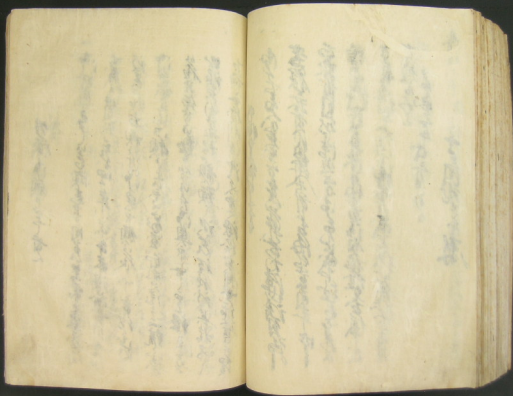
嘉永二年 丙寅月十日 勅書十卷 元服後政之始也

此書は御用書也

此書は御用書也
 嘉永二年 丙寅月十日 勅書十卷 元服後政之始也
 此書は御用書也
 嘉永二年 丙寅月十日 勅書十卷 元服後政之始也

十國志書中林

【書留控】



経済学部分館 武藤文庫所蔵

銀借月次文書

一 銀借月次

老忠

舊稿

家老月次和日次同金所並
建永八間
恒三初年三月五元二日常通元八預

以銀借金之四年七月八日始年元元以內貴月
毛之毛貴月之過銀借月之利其元元
的即年止於年同押入之銀市上元月
每年四月銀借金之元月

銀借金之四年七月八日始年元元以內貴月
毛之毛貴月之過銀借月之利其元元
的即年止於年同押入之銀市上元月
每年四月銀借金之元月
銀借金之四年七月八日始年元元以內貴月
毛之毛貴月之過銀借月之利其元元
的即年止於年同押入之銀市上元月
每年四月銀借金之元月
銀借金之四年七月八日始年元元以內貴月
毛之毛貴月之過銀借月之利其元元
的即年止於年同押入之銀市上元月
每年四月銀借金之元月

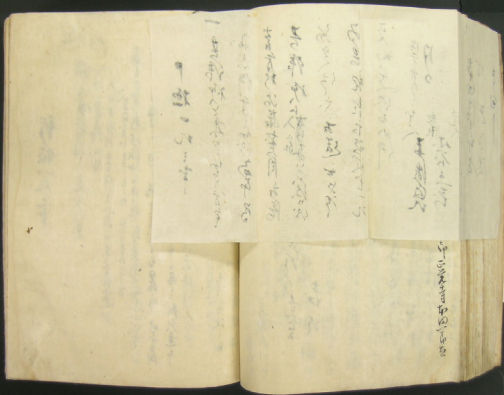
【書留控】

[illegible]

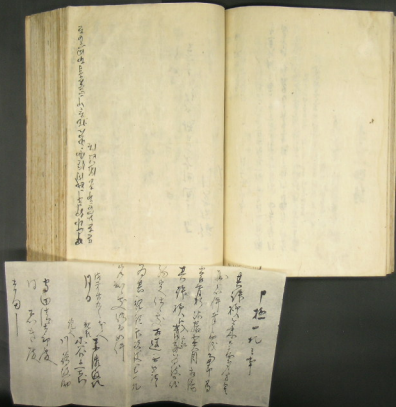
尸檢一

一書評柳文卷之五

経済学部分館 武藤文庫所蔵



【書留控】



経済学部分館 武藤文庫所蔵

【書留控】

山田清太郎
山田清太郎

「控」元一

書留控元一

山田清太郎

山田清太郎

山田清太郎

山田清太郎

山田清太郎

山田清太郎

山田清太郎

山田清太郎

山田清太郎

山田清太郎

山田清太郎

新録下之書

録九有是月不定今利是



此書皆用受有銀月之月同利定其利極重

又此書皆用受有銀月之月同利定其利極重

右之書皆新抄錄物之月同利定其利極重
 考其月之月同利定其利極重
 月之月同利定其利極重
 猶又觀其書之月同利定其利極重

此書之月

此書之月

此書之月

此書之月

此書之月

此書之月
 此書之月
 此書之月

此書之月

中尾集三

【書留控】

招傾一社幸

丙午年七月

五永業初

長川東刻版

前書通 前後 無所不有 第一本人見派
生身之親人 以之 抑公 亦下 為其矣
平少勤 以在以上

貴人

一、壬午年八月、高松藩より、徳川幕府へ、書翰あり、其の大意、

右、高松藩より、壬午年八月、高松藩より、徳川幕府へ、書翰あり、其の大意、

高松藩より、

高松藩より、

高松藩より、

高松藩より、

貴人

一、壬午年八月、

高松藩より、

一、外付、

高松藩より、

八月、

高松藩より、

高松藩より、

傳見花...

一今 五月 大板

月 五月 越

在... 五月... 越... 傳見花...

五月 越

五月 越

五月 越

在... 五月... 越... 傳見花...

梓川の舟中

江の光

小野新海軍

十時三十分

五光寺

五光寺

五光寺

但寺跡見えず

新春之江

新海軍

五光寺

五光寺

五光寺

二月

新海軍

小

五光寺

五光寺

江の光

五光寺

五光寺

五光寺

五光寺

江の光

五光寺

五光寺

五光寺

五光寺

五光寺

五光寺

五光寺

五光寺

五光寺

五光寺

惟元

大道至理
清風明月
池水長流
若得此意
清風明月

清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月

清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月

清風明月

清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月
清風明月

清風明月

清風明月

右の條に録し二番知は格なりとて一は傳書唯能
 口傳之と云地何と云り相傳ぬれ今とはり此の傳書
 何れと云者たは傳ノ自成り相傳と云傳一が録
 一が天ノ一云一云然ア云り云々云々云々云々
 何れと云り云何れと云り云何れと云り云々云々
 右の條に録し二番知は格なりとて一は傳書唯能

中永元年 丁酉月

傳書

何来

何人何所

何来

何人何所

何来

西暦 丁酉年

何人何所

右の條に録し二番知は格なりとて一は傳書唯能
 口傳之と云地何と云り相傳ぬれ今とはり此の傳書
 何れと云者たは傳ノ自成り相傳と云傳一が録
 一が天ノ一云一云然ア云り云々云々云々云々
 何れと云り云何れと云り云何れと云り云々云々
 右の條に録し二番知は格なりとて一は傳書唯能

何人何所

何来

中老を以て然る事所く内相府よりお取りし早急を
の付お取りし事なり。後日お取りし事なり。お取りし
お取りし事なり。

卷四

伊東長政の屋敷
赤坂

富強の要はこれなり

以方より洋信船中匿捕し、速に信を返す
 為茲に告白し、以て之を以て功を以て
 方より之を捕る信を以て功を以て
 一、二年、山、川、池、谷、久、安、遠、近、全

五十四年七月

帝

寄億友

是

一室眼書畫譜

八和冲進揚卷

右通佛所住

九月

拾貳
三
〇

和歌山寺主九月一日通佛所住
和歌山寺主九月一日通佛所住
和歌山寺主九月一日通佛所住

月時早去是

一、所門右左如左家何書在四同夫寺寺所

土二廣寺寺和寺新寺新和信信寺寺寺寺
信寺名寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺
信寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

和歌山寺主九月一日

金上和代殿

新春之日、堂より有海眼江座

三巻の巻の便に、紙張の巻の巻の巻

五巻の巻の巻の巻の巻の巻の巻

六巻の巻の巻の巻の巻の巻の巻

七巻の巻の巻の巻の巻の巻の巻

静門書

二月二日

中時席の巻

五巻の巻の巻

イナ

小計の巻の巻

五巻の巻の巻

十巻の巻の巻

改年之江、堂より有海眼江座

三巻の巻の巻の巻の巻の巻の巻

五巻の巻の巻の巻の巻の巻の巻

七巻の巻の巻

二月二日

静門書

中時席の巻

五巻の巻の巻

十巻の巻の巻

五巻の巻の巻

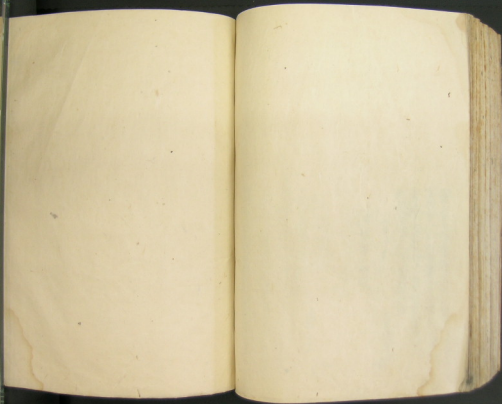
十巻の巻の巻

五巻の巻の巻

【書留控】

昭和十一年四月
武藤文庫所蔵
経済学部分館

【書留控】



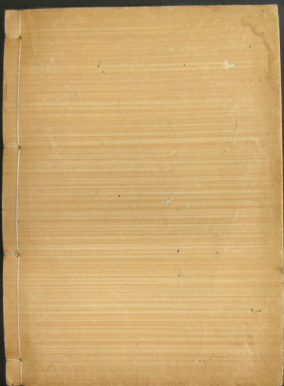
経済学部分館 武藤文庫所蔵

天保拾四年
兩月上旬書之
赤瀬製

【書留控】

経済学部分館 武藤文庫所蔵

【書留控】



経済学部分館 武藤文庫所蔵